

1. 単元名 実現しよう！「世界湖沼デー」制定プロジェクト
～Through saving the animals on the Red List～

2. 単元目標

- ・ the Red List に掲載されている動植物を調べたり、滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課の方から琵琶湖の環境における昔と今、そしてこれからについての話を聞いたりする中、滋賀県で取り組んでいることについて知る。 (知識・技能)
- ・ MLGs(Mother Lake Goals)について知り、自分たちにできることを考えることができる。また、本単元で学習した文法事項である「It is …(for+(人など))+to+動詞の原形」や「want+(人など)+to+動詞の原形」を活用して自分の意見を述べるができる。 (知識・技能)
- ・ 「世界湖沼デー」(8月27日)の制定に向けて、「自分たちが大人になった時の琵琶湖のあるべき姿とその実現に向けたアクションプラン」について発表し、海外との中学生ともそのアクションプランを共有することができる。 (思考・判断・表現)
- ・ 世界や滋賀県の現状を知り、持続可能な世界の実現や世代間の公正を実現するために、自分事として考え、行動することができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本校は令和4年度から「スクールESDくさつプロジェクト」の研究指定校となり、継続的に「持続可能な開発のための教育」(以下、ESD)に取り組んできた。今年度は「ESDを軸とした生徒の主体性と課題解決力の育成～地域との協働学習を通して新たな価値を創造する～」をテーマに、本校のESDの取組を「G-GRIT (Gaining for Globalization of Respect, Identity and Thought) 学習」と称して、「松原未来学習」と「松原ローカル学習」の2本軸で、3年間系統的かつ連続性のある学習を推進している。3年生は1年生の時からG-GRIT学習に取り組み、SDGsの知識を積み重ねて、2年生では、その知識を活用して地域の方々や企業、市役所などの多彩なステークホルダーと連携し、松原ファームの開墾から収穫までを行ってきた。そして、3年生の英語科の「Unit3 Animals on the Red List」という単元を通して、世界の絶滅の恐れのある動物について知り、自分たちにできることを考える。同時に世界の現状に目を向け、自分たちの住む滋賀県が世界に誇る琵琶湖のこれからについて考える。その際に、MLGsについての理解を深めるとともに、琵琶湖をはじめとする湖沼保全を通じた世界各地におけるSDGsの達成に貢献できる態度を期待する。

(2) 生徒観

本学年は2年間、総合的な学習の時間においてG-GRIT学習に取り組んできた。そのため、「SDGsを知っている」という質問に対して、94%の生徒が肯定的な回答をしている。また、「地球規模の具体的な課題があることを理解している」という質問に対しても、92%の生徒が知っていると回答している。一方で、「日常生活でSDGsの目標達成を意識している」という質問に対しては、42%の生徒が意識していないと回答している。また、「望ましい未来像の実現のために計画を立てている」という質問に対して、63%の生徒が立てられていないと回答している。G-GRIT

学習を通して、SDGs に関する知識を積み重ねることができているが、それらの知識を活用し、身近な課題を自分事として行動を起こそうとしている生徒は少ないということがわかった。本单元では 15 年間住み続けている滋賀県にある琵琶湖の課題を再発見し、その課題を自分事として捉えると同時に、行動できる力をつけさせたい。

また、英語でのコミュニケーションについては積極的に行うことができる。入学から 2 年間を通して、英語でのプレゼンテーションやディベート活動にも前向きで抵抗なく取り組んできた。今回、今まで学習してきた SDGs の知識を活用して英語での発表や海外の同年代の生徒とのやり取りを通して、より一層視野を広げることを期待する。

(3) 指導観

本授業では、「Animals on the Red List」に関する理解を深めるため、生徒自身がレッドリストに掲載されている動植物を調べ、それらの動植物がなぜ、絶滅が危惧されているのか、その原因についても調べ、考える取組をする。そして、その原因に対して自分たちにできるアクションプランを考えていく。また、G-GRIT 学習の基本的な考え方の中に「Think globally, act locally」がある。世界的な課題を発見した先に、身近な課題に置き換え、その解決に取り組んでいく。本单元では、琵琶湖に焦点を当て、インドネシアが提唱し、滋賀県も制定に向けて取り組んでいる「世界湖沼デー」についての学習を通して、「自分たちが大人になった時の琵琶湖のあるべき姿とその実現に向けたアクションプラン」を英語で発表する。最終的に、インドネシアの中学生と本校の生徒がオンラインでつながり、「世界湖沼デー」の制定に向けて意見の交流の場を設定していく。英語を通して、社会的な視点の涵養を目指し、英語科と G-GRIT 学習の融合により、実世界の問題を多角的に考える力を育成する。英語での情報収集とプレゼンテーション力、そして社会問題に対する理解と提言能力を統合的に学習する。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

相互性：人間を含めた生き物と自然環境は密接に関連していることを理解する。

有限性：命や自然、エネルギーは限りあるものであり、その限りあるものを少しでも未来へ残していくことが大切である。

公平性：地球環境の保全が絶滅の危機にある動植物を救うことになるとともに、琵琶湖の環境を守ることになり、未来の地球環境を守ることにつながる。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

進んで参加する態度：自分事として考え、取り組む姿勢を養う。

つながりを尊重する態度：「世界湖沼デー」制定に向けて、世界でも同じような取組をしている国々があり、その国々と協力しながら地球市民の一員であるという自覚を持つ。

コミュニケーションを行う力：英語を通してインドネシアの中学生と交流し、自分たちの考えをまとめ伝える力を養う。

未来像を予測して計画を立てる力：絶滅の危機にある動植物を救うことから琵琶湖の環境保全を通して、課題解決に向けて取り組む。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正を意識できる：絶滅の危機にある動植物を守り、琵琶湖の環境を次世代に引き継げるものである。

自然環境、生態系の保全を意識できる：琵琶湖の環境保全に向けて自分たちができることを考え、行動できるものである。

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する：他国の人々と価値観を共有することで、地球市民として1つの目標に向かって共に取り組んでいくことができる。

・達成が期待される SDGs

6 安全な水とトイレを世界中に 10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を

17 パートナリーシップで目標を達成しよう

4. 単元の評価基準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ主体的に学習に取り組む態度
①「It is …(for+(人など))+to+動詞の原形」や「want+(人など)+to+動詞の原形」を活用して自分の意見を述べようとしている。 ②調べ学習や講演を聴き、絶滅の危機にある動植物や琵琶湖の自然環境について理解を深め、自分のできることを考えようとしている。	①Preparation Sheet や四コマ漫画 Sheet を活用して自分事として考え、流れのある文章で発表しようとしている。 ②「世界湖沼デー」制定に向けて、「自分たちが大人になった時の琵琶湖のあるべき姿とその実現に向けたアクションプラン」について発表し、外部に発信しようとしている。	①世界や滋賀県の現状を知り、持続可能な世界の実現や世代間の公正を実現するために、自分事として考え、行動しようとしている。 ②単元の振り返りを通して、学習前よりも問題意識と探求心を持ってこれからの生活に学習を生かそうとしている。

5. 単元の指導計画（全14時間）

総合 次	英語 次	学習内容	学習への支援	評価
—	0	・ レッドリストについての理解を深める 夏休みの課題として、絶滅の危機にある動植物を1つ取り上げ、「なぜ、その動植物がレッドリストの掲載されているのか。」「その動植物が危機から救うために何ができるのか。」を英語で Preparation Sheet に書く。	・既習済みの文法事項を活用して、記述できるようにする。	ウ①
—	1	・ 知識を共有する 自分が記入した Preparation Sheet を活用してクラス内で発表する。	・難しい表現や単語を聴き手がわかりやすいように変換し、聞き手の意識をさせる。	イ①
—	2	・ レッドリストにある動物についての理解を深める 教科書の対話文を通して、レッドリストの分	・「want+(人など)+to+動詞の原形」が使われている文章は相手への主張だということを確認す	ウ①

		類について知る。	る。 ・レッドリストの中にも分類があり、動物園でよく見る動物ですら絶滅の危機にある現実を知り、自分事ができるように支援する。	
—	3	・レッドリストにある動物についての理解を深める 日本では絶滅したトキについての新聞記事を読んで、絶滅した理由や、日本人がトキの個体数を増やそうと活動したことに触れる。	・本文を通して、人間の経済活動が動植物の絶滅を加速させていることへの気づきを促す。	ウ①
—	4	・レッドリストにある動物についての理解を深める コンゴ共和国にいるゴリラが絶滅の危機にあるという新聞記事を通して、“If we lose one species, it affects many other.”について考える。	・本文を通して、人間の経済活動が動植物の絶滅を加速させていることへの気づきを促す。 ・“If we lose one species, it affects many other.”という記述から、「人間も動植物も地球市民の一部であり、生態系の一部であることへの気づきを促す。	ウ①
—	5	・自分事として考える 「If we lose one species, it affects many other. What happens for human beings?」をテーマにストーリーのある4コマ漫画を作り、自分自身に何ができるかを考える。	・できる限り、自分事として考えられるように、レッドリストに載っていない動植物以外で、身近な動植物を取り上げてよいことにする。	ア① ア② イ① ウ①
1	—	・滋賀県（琵琶湖）の現状と MLGs について知る 琵琶湖の動植物の中にもレッドリストに載っているものがある。琵琶湖の水環境が一部の動植物にとって住めない環境にあることを知る。	・MLGs についてのガイドブックを活用したり、生徒が興味や関心を持てるようにクイズ形式で学習を進める。	ウ①
2	—	・「世界湖沼デー」制定に向けて 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課の方から話を聴き、「世界湖沼デー」制定に滋賀県が世界に向けて取り組んできたことを知り、制定後の効果について知る。	・若い世代がこれからの世代のために「良き祖先」として琵琶湖の環境について学び、その学びを発信し、環境保全のために行動できるためのヒントとなるような講演にする。	イ② ウ①
—	6 7 8 9	・持続可能な琵琶湖の実現に向けての提言 「自分たちが大人になった時の琵琶湖のあるべき将来像と、その実現に向けたアクションプラン」を既習の文法事項を使って考え、発表する。その際、事前課題として生徒自身が実際に琵琶湖に赴き、「私が後世に残したい	・アクションプランは「環境保全」の視点にとどまらず、「社会経済」と「私たちの暮らし」とってどのような良い影響を及ぼすかについても考えられるように支援する。	ア① ウ①

		琵琶湖の風景」と題した写真を撮影する。		
3	—	・「世界湖沼デー」応援モニュメント制作 「私が後世に残したい琵琶湖の風景」の写真 を現像し、生徒一人ひとりがその写真にアク シヨンプランを記入する。それを琵琶湖を模 った板に張り付ける。	・生徒一人ひとりが好きな場所に 張れるように大きな板でモニュメ ントを作る。	イ②
—	10	・インドネシアの中学生との交流 交流を通して、松原中学校生が考えているこ とと、インドネシアの中学生の考えとの間で 共通点と相違点を見つけ、新しい視点を身に 付ける。	・予め各クラスから代表者を選出 し、インドネシアとの交流までに 練習を重ねる。	ア① イ② ウ①
—	11	・単元を通しての振り返り アンケートを実施し、以前から価値観や行動 がどのように変容したかを客観的に見る。	・アンケートは forms で実施する ことで、書くことに苦手意識のあ る生徒も記入しやすくする。	ウ②

6. 成果と課題

本取組を通して、事後アンケートの結果から育てたい ESD の資質・能力でねらいの 1 つとしていた「コミュニケーションを行う力」の割合が最も高かった。英語を使ってコミュニケーションを行う力の向上に繋がった。また、湖沼の未来を守り、後世に引き継ぐことへの動機づけになった。一方で、インドネシアの中学生との交流を行ったが、湖沼の保全に対する多面的・総合的な考えに至らなかったと考える。今後、同じ課題を同世代のユースが考え、共有する中で地球市民の一人として行動を促していけるような取組にしていく必要があると感じた。

現在の学年終了時に目指す姿

琵琶湖の環境を通して、世界の環境問題を考えたり、それらの課題を海外の同世代の生徒とコミュニケーションを図ったりすることで、地球市民の一人として行動を起こすことができる。



インドネシアの中学生も未来のために行動しているんだな。

英語科「Session of "World Lake Day" with Indonesian Junior High School students」
MLGsの講演会を聴き、生徒自身が琵琶湖の環境を守り、琵琶湖の美しい景色を後世に受け継いでいくためにできるアクションプランをインドネシアの中学生と英語で互いに交流する。そして、「世界湖沼デー」の制定に向けて取り組む。

道徳科「川端^{かわばた}のある暮らし」（日本文教出版）
「川端」が人々の暮らしにどのように根づき、生活に溶け込んでいるのかについて理解を深め、人間と自然との共生の在り方に気づかせる。人間は自然の中で生かされていることを自覚し、自然環境を大切にすることの態度を育てる。

英語科×総合的な学習の時間

「実現しよう！「世界湖沼デー」制定プロジェクト」

○主に養いたい ESD の資質・能力

つながりを尊重する態度

「世界湖沼デー」制定に向けて、世界でも同じような取組をしている国々があり、その国々と協力しながら地球市民の一員であるという自覚を持つ。

未来像を予測して計画を立てる力

絶滅の危機にある動植物を救うことから琵琶湖の環境保全を通して、課題解決に向けて取り組む。

○主に育てたい ESD の価値観

世代間(世代内)の公正

絶滅の危機にある動植物を守り、琵琶湖の環境を次世代に引き継ぐために、現在自分にできることに取り組む。

世界における琵琶湖の希少性を知ることができた。

総合的な学習の時間

「MLGs について知ろう」

自分たちの住む滋賀県が世界に誇る琵琶湖のこれからについて考える。その際に、MLGs(MotherLakeGoals)についての理解を深めるとともに、琵琶湖をはじめとする湖沼保全を通じた世界各地における SDGs の達成に目を向ける。

英語科「Unit3 Animals on the Red List」

世界には絶滅の恐れのある動物がいることについて知り、人間の生活が豊かになればなるほど絶滅のリスクが上昇することに気づかせる。また、生徒自身がレッドリストに掲載されている動植物を調べ、それらの動植物がなぜ、絶滅が危惧されているのか、その原因についても調べ、自分ができアクションプランを考えることで、自分事として捉えさせる。

針江地区には琵琶湖を汚さないシステムを取り入れているんだな。

動物園にいるような動物でも絶滅の危機のさらされているのか。